※令和４年度以降入学生用

学校番号	2003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(学)数学Ⅲ演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ＋C(数研出版) リピート数学Ⅲ＋C(数研出版) スタディアップノート 数学Ⅲ(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

半期で多くの単元を網羅するため、しっかりと予習・復習をすること。受験対策を考慮して、予習や復習などプラスアルファの学習もすること。

2　学習の到達目標

数学的な知識について深く理解し、主体的に習得し、活用する中で技能の習熟を図る。 ・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。 ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 ・数学的知識を用いて事象を表現する良さを認識し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、積極的に評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	各単元についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	各単元について考察したり、単元間の関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、後期末に５段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	関数	分数関数や無理関数の性質を理解し，それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また，関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し，事象の考察に活用できるようにする。	a：既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現･処理できるようにする。 b：既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c：数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト
	極限	数列の極限の概念を理解し，様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については，その極限と各項の極限との関係を理解し，正しく考察できるようにする。	a：既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現･処理できるようにする。 b：既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c：数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト

※令和４年度以降入学生用

	微分法	微分係数や導関数の定義を理解し，導関数についての様々な性質や公式を導き，それらを導関数の計算に活用できるようにする。 導関数の定義や公式を適用して，いろいろな関数の導関数を導き，それを用いて関数が微分できるようにする。また，陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし，それらを事象の考察に活用できるようにする。 関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また，点の運動や近似式についても理解し，導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。	a: 既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現･処理できるようにする。 b: 既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c: 数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト
	積分法	様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え，それをもとに不定積分を求められるようにする。 様々な関数の定積分を求められるようにする。また，定積分を面積として捉え，様々な事象の考察に活用できるようにする。 定積分を活用して，面積，体積，曲線の長さなどを求められるようにし，またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。	a: 既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現･処理できるようにする。 b: 既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c: 数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度